

オンライン開催!!

# 中学生 高校生 ICT カンファレンス

2024  
in 大分

議論  
テーマ 今、中学生・高校生が考える  
生成AIとの付き合い方

—「誤情報・偽情報」を越えた活用法を考える—

生成AIは、従来のインターネット利用方法を変革し、検索・生成技術に革新をもたらしています。さらに、概要から文章を生成したり、指示された言葉から画像や動画を生成する能力も持つようになりました。生成AIの急速な発展は、情報のアクセスやイメージ発信を容易にし、利用者のリテラシー向上に寄与していますが、偽情報や誤情報の拡散に影響されるリスクにもさらされています。このように利便性とリスクは密接に結びついています。生成AIの特徴について、将来の社会を担う中学生高校生はどのように認識し、リスクを克服し、そしてどう活用していくべきかを議論し、社会に提言します。

日時 令和6年7月27日(土) 12:30~17:00

会場 荷揚複合公共施設  
6F多目的大会議室

参加 39名(高等学校15校・中学校2校)

大分県立情報科学高等学校・大分県立日田高等学校・大分県立大分商業高等学校・大分県立大分舞鶴高等学校・岩田高等学校・大分県立大分上野丘高等学校・大分県立別府翔青高等学校・大分県立大分西高等学校・大分県立杵築高等学校・楊志館高等学校・大分県立大分工業高等学校・大分県立臼杵高等学校・大分県立鶴崎高等学校・大分県立東明高等学校・大分県立玖珠美山高等学校・大分県立大分豊府中学校・大分市立明野中学校(順不同)

主催 大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

主催(全国) 高校生ICTカンファレンス実行委員会

共催(全国) 子ども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

後援 OBS大分放送 TOSテレビ大分  
OAB大分朝日放送 大分合同新聞社



## アフターカンファレンス 2024

今年度のカンファレンスで大分県代表生徒に選出された、大分県立杵築高等学校  
1年 和田琥春さんと、情報担当の豊田友紀先生にお話をお伺いしました!

Q: ICTカンファレンスに参加をしてくださりありがとうございました! まずは、大分大会に参加した理由を教えてくださいませんか?



和田琥春さん

(和田): 豊田先生から、「こういうのがあるよ。学べることも多いし楽しいから行ってみれば」と教えていただき友達と参加を決めました。

Q: ありがとうございます! 豊田先生は、どうしてICTカンファレンスの情報を生徒さん方にご共有いただけたのでしょうか?

(豊田): 情報の授業はもちろんありますが、その中で、生徒たちの視点で身の回りにある課題を考えてほしいなと思ったからです。また、自分の言葉で自分の気持ちを伝える練習にもなるかと思って、声をかけました。



豊田友紀先生

Q: やはり利用者自身が自分事として考えることはとても有意義ですね。ありがとうございます! それでは、和田くん、カンファレンスに参加した感想を教えてください。

(和田): 同じ目的を持っている人たちが集まるのでとても会話が弾みました。同じグループにパソコンにとっても詳しい方がいて、変化球的な考えをたくさん提案してくれました。それらをまとめてより良いものにしていく作業がとても楽しかったです。違う学校の友達とコミュニケーションもとれて、LINEの交換もしました! 全国大会は、とにかくみなさん活発的でした。ずば抜けて意見を言う方がいたのですが、それに便乗してみんなが意見を言うと、ちゃんとまとめてくれて。「わはは!」という楽しさではなく、本当にどんどん意見を出して、反芻して良くて・・・という楽しさがありました。

(豊田): やっぱり全国の代表生徒に選ばれている方なので、発言も積極的ですしすごく堂々と自分の意見を話してすごいなと感じましたね。

Q: 今年のテーマは「生成AI」だったのですが、実生活の中で高校生はどんな場面で生成AIを利用されているのでしょうか?

(和田): 例えば「人権」について学ぶ必要があるときに、課題を生成AIにいくつか提示してもらって、深堀は自分の力で

やっていくような、ヒントをもらったりしています。主に、文章生成を使っています。

Q: 生成AIに丸投げするのではなく、最後は「自分の力」を使っているんですね! 素晴らしい! 今後こういった技術の発達により、利用者のリテラシーが今よりさらに必要不可欠になっていくと思うのですが、モラルやリテラシーを高めるためにどんなアクションを起こせば良いでしょうか?

(和田): 僕は実際にLINEのやりとりで言葉使いを失敗してしまったことがあります。失敗を恐れないのだったら、もうどんどん活発的に利用して行って、その中で学んでいくことがいいと思います。ただ、問題によっては、1つの間違いが命の危険にさらされることもあるので、身近な事例を利用者が深堀して調べ、警戒していくことが必要だと思います。生成AIの活用については、クロスチェックを行うことを心がけています。ただし、誰かが同じような情報を意図的に溢れ返らせてやろうとなったときにはクロスチェックも機能しないので、その情報が出た日時より少し前の情報を探して正確性の高い情報を利用しようと思います。

Q: とても貴重な意見をありがとうございます! それでは、最後にまだカンファレンスに参加されたことがない生徒さんに向けてお二人から一言ずつお願いいたします。

(豊田): 今の子どもたちは情報社会を生き抜いていけないといけない。その力を身につけるために、授業だけではなく自分の視点で色々なことを考えてほしいなと思います。カンファレンスは、同年代の子どもが、どういう視点で、お互いどんな課題を持って、どんな風に解決していくかを考えていく場だと思っているので、ぜひ経験してほしいと思います。

(和田): カンファレンスは同じ志をもっている方が集まるので、話に熱中して、会話がとまることなく話せて楽しいです! 知らない場所で、知らない人たちとのくらい会話ができるのかという実力を試し、経験を積めるのでみなさんにも参加してほしいです!



文責: ハイパーネットワーク社会研究所 矢野歩実

### <参加者の感想>

★高校生が自由に自発的に考えていることを話し、その意見を一つ一つ丁寧に尊重して受け入れていたので、とても良い機会になったと思った。

★他校の人たちとディスカッションをして、みんな生成AIについての知識を持っていて、賢くてすごいと思った。自分も頑張って知識をつけたいと感じた。

★グループディスカッションを通して自分の意見と異なる意見や、自分が思っていた考えと別の視点からの意見を聞いて考え方、見方がより深まりました。インプットした知識をアウトプットするのも大切なことだとわかった。今回の議題であ

る生成AIについて今回で調べるのをやめるのではなく、これからの情報関係のニュースについて関心を持っていきたい。

★自分にはまだ足りない知識が多くあることに気づきました。班のメンバーの意見を聞きそれを自分のものにするの大切さを学ぶことができました。とても良い経験となりました。来年もぜひ参加したいです。私は今まであまりAIについてあまり興味は湧いていなかったのですが、今回の経験を通して新しいことにも興味を持ち、色々なことに挑戦したいと思います。

★月並みですが、自分の知らなかったことや新しい視点に目を向けることができ、実りある会であったと思いました。

# ICTカンファレンスって何?

高校生ICTカンファレンスは、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。大分県は2013年度から開催し、今回は11回目となります。高校生の意見を国の機関に届けるべく、全国サミットにより提言をまとめ、ファイナリストに選ばれた高校生が、関係省庁で発表を行っています。大分県では令和元年度から『中学生・高校生ICTカンファレンス』の開催となり、中学生も参加しています。

## ICTカンファレンスの開催目的

以下の目的で、中学生や高校生が学校の垣根を越えて話し合います。

- ①初対面の相手と「考える、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」ことに挑戦する。
- ②スマートフォンやインターネットを安心・安全に使うための情報モラルを深く考える。



## 当日の流れ (大分開催)

実際に顔を合わせて議論を進めるので、議論の楽しさを感じられる1日となりました。

### タイムスケジュール

- 12:00～ 受付開始
- 12:30～ 開会、趣旨説明
- 12:45～ 自己紹介  
アイスブレイク  
「生成AIって何? 利用したことがある?」
- 13:05～ グループディスカッション1  
「なぜ人は偽情報を作るのか」
- 13:45～ グループディスカッション2  
「生成AIと偽情報、誤情報」
- 14:15～ 提言作成  
「学生が考える、生成AIのこれからの活用方法」
- 15:30～ 各グループによる提言発表
- 16:20～ 審査
- 16:40～ 審査結果発表・講評
- 17:00 閉会

## 発表

データ分析の効率化  
→アンケート結果の集計  
スケジュール管理  
企業のチャットボット  
→質問に対する返答の自動化  
工場の生産ライン



各グループは、iPadを利用し、オンラインツールで発表資料を作成します。画像やアニメーションを取り入れながら、見やすい資料を作り上げていました。1グループ3分の発表時間の中で、各グループ堂々とした発表を見せてくれました。



協力校：NBU日本文理大学  
IVY大分高度コンピューター専門学校  
国立大学法人 大分大学

## 議論を後押しするファシリテーター

参加生徒たちのグループワークを後押しする役目として、カンファレンスの過去の参加者や大分県内の社会人、大学・専門学校生にファシリテーターを務めていただきました。



## 審査・表彰

各グループの発表については審査員による審査が行われ、各賞が決定しました。

また参加生徒全員による投票でグループ賞が決定、選ばれた個人・グループには、賞状と豪華賞品の中から好きなものを選んでいただきました。



ICTカンファレンス2024の様子を動画で閲覧できます! ぜひQRコードからご覧ください。



各地域

全国

関係省庁

## ICTカンファレンスの流れ

### アイスブレイク

自己紹介等をして、少しずつ打ち解けていきます。

### 議論・まとめ

4～5名のグループで、テーマに沿った議論をし、提言をまとめます。

### 発表

まとめた提言をグループ毎に発表し、県代表を決定します。

### サミット

全国各地域からの高校生代表生徒がサミットに参加し、政府への提言をまとめるための議論を行います。サミットでも代表生徒を選考します。

### 最終報告会

サミットの代表生徒が、共催府省庁に、高校生の考えを提言します。

